

## やってみよう!!短時間のグループアプローチ

### Q1 学校で行うグループアプローチってどんなもの？



個人の成長や集団の人間関係の発展、改善を図る教育活動です。  
主なグループアプローチを、以下に示しました。

構成的グループ・エンカウンター (SGE)	集団の持つプラスの力を最大限に引き出す方法。学級作りや保護者会等に活用できる
ピア・サポート・プログラム	児童生徒が互いに支え合う関係を作るためのプログラム、段階的に積み重ねる
ソーシャルスキル教育 (SST)	社会的技能をトレーニングを通して育てる方法
アサーションスキル教育	「主張訓練」対人場面で自分の伝えたいことをしっかりと伝えるためのトレーニング

### Q2 構成的グループ・エンカウンターとはどんなもの？

#### 【エンカウンターとは】

エンカウターの意味は、「出会い」です。ホンネとホンネの交流や感情交流ができるような親密な人間関係（体験）をいいます。

#### 【構成的グループ・エンカウンターとは】

エンカウンターをグループを通して行うので、グループエンカウンターといえます。これに、条件設定（場面設定）をします。「対象」「グループサイズ（グループの人数）」「エクササイズ」「時間」「ルール」を構成して、教師が進行します。

#### 【なぜ、構成するのか？】

- ①子どもが緊張から解放され自由になるため。自由になれば、ホンネの自己表現・自己主張がしやすくなる
- ②子どもの抵抗（心理的な防衛機制）を予防し、心的外傷から守るため
- ③子ども相互のふれあいを効果的に促進するため

### Q3 構成的グループ・エンカウンターは どうやって実施すればいいの？

#### 構成的グループ・エンカウンターを行う上で、大切なこと

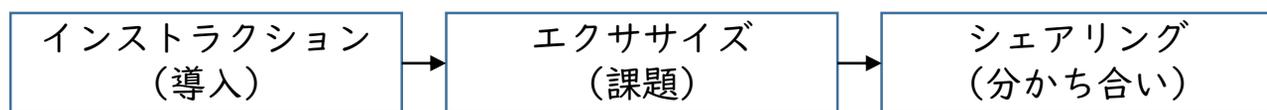


#### 【ルールが大切】

構成的グループ・エンカウンターを行う時は、ルールを守ります

- ①守秘義務を遂行します
- ②非難したり、批判したり、評価したりしません
- ③発言を強要しません
- ④エクササイズを強要しません

#### 【構成的グループ・エンカウンターの3本柱】



#### ○インストラクション

教師がエクササイズの目的、方法、留意点を丁寧に説明します  
コツは、主語と述語を明確に、ワンセンテンスを短く、です

#### ○エクササイズ

心理学的な体験学習の「課題」のこと。その課題に取り組む活動なので「エクササイズ」というのです。

～短時間のエクササイズの例～

- ・「アドジャン」「二者択一」「サイコロトーク」等（自己理解・他者理解）

#### ○シェアリング

エクササイズに取り組んでみて、「感じたことや気づいたこと」を共有します。「エクササイズ」と「シェアリング」は表裏一体で相互に補完し合うものですから、セットで行って、はじめて効果のあるものとなるのです



#### ☆POINT☆

「気づき」がなければ、エクササイズの意味がありません。  
「楽しいゲーム」との違いはココです！

## Q 4 構成的グループ・エンカウンターはいつやったらいいの？

こんな時間に実施しました！

### 【小学校】

- 朝の帯時間（8：20～8：35）に実施
- 特別活動の時間の前後に実施

### 【中学校】

- 水曜日の掃除の時間をカットして帰りの会後に実施
- 特別活動等の授業の前後の時間に実施
- 朝自習の時間に実施

### 【高等学校】

- 週1回、清掃時間をカットして終礼前に実施
- 朝、個人で振り返りをし、その日の終礼前に実施



いずれも10分～15分の短時間で行いました

## Q 5 構成的グループ・エンカウンターをしやすいするためにはどんな工夫があるの？



### 【学校全体で共通理解して】

- 全校で活動時間を決めて、継続する
- 年間計画の作成

### 【教材の準備】

- 指導案、ワークシート、ふりかえりシートを共有フォルダに入れ、全校で使えるようにする
- 「目的」「ルール」「手順」「エクササイズのお題」など、黒板に掲示するカード等は、全校で統一し、複数作っておき、学年ごとに使用する

### 【研修】

- 教員がまずは体験し、理解する
- 進め方、配慮すること、困ったときの対応などを共通理解する

大分県教育センター教育相談部が実施している出前研修が活用できます！

# 児童生徒相互のよりよい人間関係をつくるために

## 児童生徒相互のよりよい人間関係がなぜ必要か

<中学校学習指導要領「総則」第4 生徒の発達の支援より>

「(1) 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。(2) 生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学級生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら生徒指導の充実を図ること。」(小学校は生徒を児童と読み替える)



## よりよい人間関係をいじめの未然防止等につなげる

<中学校学習指導要領「特別活動」第3の1の(3)より>

「(3) 学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の生徒についての理解を深め、教師と生徒、生徒相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。」(小学校は生徒を児童と読み替える)

## 調査協力校での児童生徒や教職員の声



児童生徒の声

日頃あまり話さない友達と話すことができ、相手の知らない部分を知ることができた。

仲良しでない人とのグループづくりへの抵抗が減った。普段目立たない児童生徒が表に出ることもあった。



Good!  
教職員の声



調査協力校の実践の中から、自校に合った取組を選んだり、自校に合わせてアレンジしたり、いくつかの取組のいいところどりをして組み合わせてください。

肝心なことは、「人間関係づくりプログラム」が得意な先生のクラスだけで実践するのではなく、学年全体・学校全体で取り組むことが大切です。